

2021. 7. 27

縄文の風

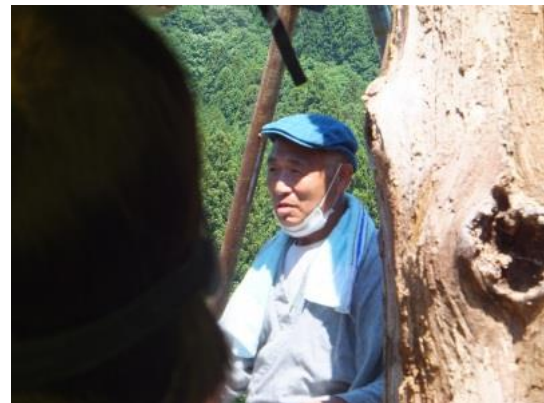
森紘一



素晴らしい夏空の7/25(日)、阿賀野川と赤い船渡大橋を見下ろす小高い丘の上で「奥阿賀縄文アーツの21世紀展望」と題する講演と対談が開催された。

並べられた杉の丸太の上にアルミ板が敷かれ、埋め込まれた栗の古木を柱に、パイプ管とテントシートで覆われただけの素朴な野外舞台は、日陰に入りきれない40人を超える皆さんであふれた。

周りには、佐藤さん手づくりの作品「ストーンサークル」と7トンを超える地元の巨石が4分割されて環状に置かれている。この地は、かつて小林達雄先生がストーンサークルづくりに最適と推奨された場所である。



講師の加藤春一先生は、佐藤さんとの出会いは今回が初めてで、小林達雄先生のご紹介と話された。佐藤さんの著作や作品、コスモ夢舞台のホームページにも眼を通され、佐藤さんとのメールや電話の交換で創作活動やコスモ夢舞台の活動についても熟知されている様子だった。

今回は縄文道研究所代表理事として、さまざまな体験・知見に基づいて助言やご提案をいただけるということで、我われも楽しみにしていた。

佐藤賢太郎とコスモ夢舞台のこれからの課題は、ようやくたどり着いたストーンサークルづくりであり、縄文村構想である。次世代にいかにかスムーズにつないでいくかという持続可能性の諸問題が残る。現在はコロナ禍で、ウーファアの来訪は途切れているが、やはり諸外国の若者たちの支持はありがたい。そこに、

加藤春一先生ではないが、コペルニクスの転換で都市から地方へと人の流れが変わる可能性が高まっている。

会場には、澤野県議会議員、阿賀町神田町長も同席されていた。ぜひ、阿賀町豊実を新しい生き方の縄文村としてご支援をお願いしたいと思います。

そして加藤春一先生にも、多方面への情報発信のご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

炎天下ではありましたが、豊実には心地よい「縄文の風」が吹き始めていることを実感することができました。